

# Communication Leaflet

vol.7

学部長より ございます



## 卒業生のみなさんへ

卒業生の皆さん、お元気で活躍のことと思います。

システム工学部およびシステム工学研究科の研究レベルは、地方国立大学のなかでも高い方であると自負しております。なかでも、システム工学研究科が博士後期課程を有していることが、その大きな原動力となっており、これまでに優れた研究能力と工学実践能力を備えた博士（工学）を輩出しています。その本研究科博士後期課程に、本年度から、グローバルエンジニアリングコースが設置されました。これは、グローバルな人材の育成が国家戦略となっているなかで、本研究科もそれに乗り遅れないためのコース設置です。このコースでは、従来の専門的な研究に加え長期インターンシップ（基本的には、海外インターンシップ）を課しています。また、技術経営学（MOT）などの実践的な講義の履修も勧めており、社会で研究開発などのトップとなるべき有用な人材の輩出を目指しています。卒業生のみなさんも、チャンスがあれば、社会人ドクター

として本学研究科博士後期課程に入学されることをお勧めします。また、「システム工学研究科博士後期課程高度知識技能職育成プログラム」（授業料免除、出前研究指導）も用意しておりますので、ご活用ください。

さて、アメリカのある大学の教育理念に“Not four years, but forty years.”というものがあります。本来、この言葉は、大学は4年間を過ごすことだけが重要ではなく、在学中に卒業後の人生（40年以上）のために精進しなければならないことを意味しているようです。しかし、大学が学生を4年間教育して卒業させたら、それで卒業生と無縁になるのではなく、40年以上の卒業後の人生を支援してゆくという大学の姿勢を示しているとも考えられます。本学システム工学部は、この理念を堅持してゆく考えですので、できるだけ同窓会などに出席して、大学とのつながりを維持していただきたいと思います。今後とも、システム工学部およびシステム工学研究科と同窓会の発展のためにご尽力ください。

（システム工学部長 木村 恵一）

## 教員異動のお知らせ

この3月で、情報通信システム学科の中川優教授が定年を迎えられました。

また、情報通信システム学科の坂本竜基講師と井上悦子助教が退職されました。

一方、10月には環境システム学科に小川宏樹講師が、4月には、光メカトロニクス学科に松本正行教授、情報通信システム学科に大平雅雄講師がそれぞれ着任されました。



## 南海電鉄南海線・和歌山大学前駅(ふじと台) 開業



我々、和歌山大学システム工学部デザイン情報学科・原田研究室所属の大学院生の大野森太郎(2011年度博士前期課程修了)、学部生の堀切川和也、松谷康子の3人が、南海電鉄南海線・和歌山大学前駅(ふじと台)の開業に向けて何かお手伝いしたいと思い、ボランティアでヘッドマーク、コンパスカード(台紙を含む)、ならびにコンパスカード販売告知ポスターのデザインを担当しました。

デザイン作業は、調査、アイデアスケッチからデザイン完成まで1ヶ月余を要しました。ヘッドマークは駅舎と車両をモチーフとし、車両のカラーを円盤の縁(オレンジ)と下部(ブルー)に用いることで、視認性を高めるとともに車両との調和を図りました(写真上)。コンパスカードは開業当日の爽やかな早朝の風景をモチーフに、カードと台紙にストーリー性を持たせ、新しい日常の始まりを表現しています(写真下)。完成したデザインも、とても満足いくものになったと思います。コンパスカードは1万枚限定での発売でしたが、1か月余で完売したそうです。また、実際にカードを購入していただいた方からお褒めのお言葉を頂戴したり、学生団体UNNが発行する関西の9大学合同の学生新聞「FOCUS」や、NHKのバラエティ番組「あほやねん、すきやねん」でも本件を取り上げていただきました。

この度はたいへん貴重な経験をさせていただき、多くのことを学ばせていただきました。この経験や学びを社会で活かしたいと考えます。

(デザイン情報学科 4年 堀切川 和也)

## 第3回 和歌山大学システム工学部同窓会

2011年11月19日(土)に第3回システム工学部同窓会近況報告会が盛大に開催されました。本会は、卒業生、修了生及び教職員OB等の方々、在学生を対象に、会員同士の交流を活発にさせていただくため、2009年より開催しています。

当日はあいにくの悪天候でしたが、117名のみなさまにご参加いただきました。お越しいただきましたみなさま、お足元の悪い中にもかかわらずご参加いただきまして本当にありがとうございました。

別所良起同窓会会長、学部を代表して木村恵一システム工学部長から大学の現況報告と同窓会活動に対して感謝の挨拶があり、その後会員から近況報告が行われ、参加者の交流が活発に行われました。

本年度の近況報告会は、各学科の卒業祝賀会と合同で実施される予定です。また、平成25年度はホームカミングデーとの同時開催を予定しております。また、同窓会のHPも随時更新しておりますので、是非とも最新の情報をご覧ください。今後も皆様のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

(光メカトロニクス学科 助教・同窓会副会長 菊地 邦友)



# Computer and Communication Sciences

情報通信システム学科

## 学科長より

今年度は、大平先生をはじめとして優れた新任教員を複数迎え、教員組織は大幅にリニューアルします。入試倍率は増加し、留年生は減少しております。このように、情報通信システム学科は教員と学生の努力を背景に、着実に前進しております。新駅もでき、大学へのアクセスも良くなりました。お近くにお越しの際は、学科の様子を見に、ぜひ、お立ち寄り下さい。

をあいさつ



## 新任の先生より

今年4月に情報通信システム学科に着任しました大平と申します。ソフトウェア工学を専門としています。最近には特に、企業におけるオープンソースソフトウェアの利活用の支援を目的として、ソフトウェア開発の過程で蓄積される膨大な開発履歴データを分析する技術「ソフトウェアリポジトリマイニング」の研究を精力的に行っています。学生時代も含めて10年以上、奈良先端大という学部を持たない大学に所属していましたので、久しぶりに若い学生がたくさんいる環境に身を置き、刺激的な毎日を過ごしています。これからも学生の皆さんに負けなくらいフレッシュな気持ちで教育／研究に精一杯取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 研究室より

本研究室では、主にネットワークのルーティングについて研究を行っています。インターネットや無線アドホックネットワーク等のネットワークを対象として、いかに効率良く通信を行うかについて、学生と一緒に考えながら、新しい効果的な方法を追求しています。今年度は大学院生と学部生を合わせて総勢17名の学生が在籍し、賑やかに研究活動をしています。2011年度には、学生が主体的に進めた無線メッシュネットワークの耐故障性を向上する研究が、マルチメディア通信と分散処理ワークショップ(DPSWS2011)において優秀論文賞を受賞しました。(准教授 吉廣卓哉)



## 研究室より

平成21年度から「情報理論研究室」という看板を掲げて活動しています。3年目になる昨年度は、1年目に卒研生として配属されてから在籍していた博士前期2年生をはじめ、学生全員が無事就職・卒業しました。これは大変喜ばしいことなので



ですが、その半面、新4年生にとっては頼りにできる先輩がいなくなってしまうました。直接会って気軽に相談できる先輩がいないことは、研究室における知識を伝承するうえでの問題となっています。4年生にとっては大変ですが、逆に、先輩に頼らず自分で問題を解決することがよい勉強になると割り切って卒研に取り組んでいます。このように、4年生を中心にまた新しい研究室をスタートするつもりで活動しています。

(講師 葛岡成晃)

# Opto - Mechatronics

ごあいさつ



教授 野村 孝徳

## 学科長より

卒業生の皆さん、こんにちは。お元気でお過ごしのことと思います。今年度も新しく、松本先生が赴任されました。毎年のように新しい先生が来られ、設立当時からの教員は3分の1ほどになっています。現在の学科は、マイクロ工学、波動エレクトロニクス、光波テクノロジー、情報フォトンクス、システム制御、ロボティクス、知的メカトロニクスの7つの研究室から構成されています。「出身研究室がない!」と思われた方もおられるかもしれませんが、新しい研究室に変化しただけですのでご安心ください。このように光メカトロニクス学科も少しずつ進化しています。卒業生の皆さんが、機会を見てその様子確かめがてら大学に足を運んでくれるのを心待ちにしています。

## 新任の先生より

4月に着任して3か月が過ぎようとしています。新しくできた和歌山大学前駅を利用した通勤にも慣れてきました。私はこれまで、光ファイバを使った信号伝送や、ファイバ中の非線形効果を利用した光パルス形成や光信号処理の研究を手掛けてきました。これからは、周りの皆様の研究をヒントにして、新しい課題にも取り組みたいと思っています。基礎を積み重ねて新しい成果を得る面白さ(苦勞も伴いますが)を少しでも学生諸氏に伝えることができると願っています。



教授 松本 正徳

## 卒業・修了祝賀会



昨年度の学位記・修了証書授与式の日、かねてからの念願であった学科主催の卒業・修了祝賀会を開催しました。卒業生有志が主体となって、卒業研究で忙しい中、時間を捻出し、企画・運営したものです。学生どうし、学生と教員間、教員どうし!?で想い出話に花が咲き、非常に楽しいひとときを過ごすことができました。この祝賀会もそうですが、光メカトロニクス学科では、数年前からは、一人ずつ学科長が卒業生の名前を呼んで学位記を手渡すなど、人と人とのつながりを大切にするような行事が増えています。

# Material Science and Chemistry

精密物質学科

ごあいさつ



教授 高橋 雄 昭

## 学科長より

卒業生の皆さん、お元気ですか。皆さんはそれぞれの分野で存分にご活躍のことと思います。精密物質学科の教職員は、最近2年間は特に異動はなく、全員元気で教育研究に励んでいます。時代に即して進むことが使命である工学系学部では、常に変わっていくことが求められています。どのように変わるべきかについては、卒業生の皆さんのご意見が大変重要です。大学時代のどのようなことが実社会で（短期的および長期的な観点から）本当に役に立つのか、ご意見をお聞かせください。また、和歌山大学近くにお立寄りの機会がありましたら、新しくできた大学前駅の見物かたがた、懐かしい顔を見せてください。いつでも大歓迎です。

## 電子材料グループ

卒業生の皆さん、こんにちは。電子材料グループの田中です。半導体グループと言っていた頃からすでに12期の卒業生を送り出して来ましたので、総勢は100人を優に超えているはずですが、皆さん、それぞれの場所でお元気で活躍されていると存じます。われわれスタッフは相変わらずといったところでしょうか、ここ数年は特に変わったことはありません。ところで、この4月から南海線に和歌山大学前という新しい駅ができました。近年、大学の北側が大規模に宅地開発されて人口が増え（小学校も新設されました。）新駅の開業につながりました。そこで、私も長年の自動車通勤を止めて、新駅から片道20分ほどの距離を歩いて通勤しています。運動不足を解消して健康増進につながればと期待していますが、皆さんも健康に気をつけてますます頑張ってください。

（教授 田中一郎）



2011年度電子材料グループ

## 中西 和郎 先生より



「計算先導」と命名した実験と計算を融合させた研究法を提案し、多くの成果を挙げてきました。この研究法に基づく「拡張超原子価結合」の提案と発展が評価され、ドイツのフンボルト財団主催の国際学会 OOCUMI-2012 (インド)に国際諮問委員会委員として招かれ、特別講演を行いました(本年1月：文教速報に掲載)。また昨年、徳島大学の落合教授との共同研究の成果が、『Science, 332, 448 (2011)』に掲載されました。驚異的な成果であったため、NatureのResearch Highlights、アメリカ化学会誌のC&E News、現代化学、新聞等で紹介されました。毎日楽しく研究やゼミ活動を行っています。

## 学科長より

昨年度の私の挨拶では、冒頭で、東日本大震災の皆様への哀悼の意を表明いたしました。今年は、それに加え、昨年の7月と9月には、この和歌山で、何人もの方がお亡くなりになる台風被害がありました。昨年からの度重なる災害は、皮肉なことに、皆さんが本学で学んだ「環境技術」の注目度を一段と高めることとなりました。原発事故の問題から、自然エネルギーへの期待が高まるなど、本格的な「環境の世紀」が到来しました。皆さんのご活躍が期待されます。

学科の近況を少し説明しますと、平成23年の10月に、小川宏樹先生を講師として学科にお迎えしました。都市計画がご専門の研究者で、学会賞を受賞されるなど、とても優秀な若手研究者です。学科の中では、数多くの若手の教員がチームを組んで、和歌山の宝でもある有田川町の「あらぎ島」の調査に奔走されています。間近に迫った、「あらぎ島」で開催される全国棚田サミットの準備と、専門の立場から学術情報を提供しています。

今の1年生は、すでに17期生です。新しい教員を含め、皆さん

ますます元気です。この私も、学科長2年目です。大学は皆さんにとって「実家」です。いつでも来てください。そこには、皆さんの青春が詰まっていますから。

(学科長 中島 敦司)



那智勝浦町の災害現場

## 災害が残したもの



学生による復旧支援のボランティア活動

学科長挨拶でも台風被害のことを書きましたが、学科の中に、平成23年台風12号被害を支援する学生団体「結(ゆい)」が結成されました。紀伊半島の受けた惨状を憂えた学生達が、学年や興味内容、研究室の枠を飛び越え、自主的なボランティア活動を開始しました。そればかりか、他学部の学生まで参加するようになってきました。結の活動では、現地に行って被災地の清掃などを行うだけに留まらず「大学らしい支援ってなんだろう?」と考えた結果、災害調査を行うことで今後役に立つ情報を地域に提供することにも務めています。結の活動から、今の若者のピュアで優しい一面を見させてもらっています。こういう若者が育っていくことに、環境システム学科らしさを感じてやみません。

## 研究室より

平成23年10月より、環境システム学科の講師に着任しました小川宏樹と申します。専門は都市・地域計画で、大都市圏の土地利用・人口動態といった固い教育・研究活動から、住民参加のまちづくりのようなやわらかい地域活動まで幅広く行っております。

本年4月より大学院博士前期2年生1名、4年生1名を迎え、新たに「都市デザイン研究室」を立ち上げました。当面の研究室のテーマを「地方都市におけるコンパクトシティ・集約型都市構造のあり方」に定め、和歌山・泉南地域に相応しい教育・研究や地域活動に取り組んでいきたいと考えております。



# Design and Information Sciences

デザイン情報学科

## 学科長より

卒業生の皆様、元気で活躍していることと存じます。今年も新入生歓迎会が開かれ、先輩たちの企画や活躍でおおいに盛り上がりました。昨年度は、オープンキャンパス、同窓会、教育懇談会等の例年催しの他に、新たな試みも始動しました。次に紹介するスチューデントリーダーによるピア・エデュケーション活動です。低学年次学生に対するフォローが強化され、今後の成果が期待できます。一方、学会発表やコンペ等での学生の活躍も目立ち、10名が外部からの表彰を受け、学部長／研究科長表彰の対象者となりました。また、ラオス国立大学の先生も来訪され、国際協力への一歩を踏み出しました。デザイン情報は元気です。卒業生の皆様のますますの躍進を期待しております。

(教授 入野 俊夫)



研究科長（学部長）表彰

## スチューデントリーダー



基本情報技術者資格の勉強会風景

システム工学部では、平成23年度後期からスチューデントリーダー（SL）によるピア・エデュケーション活動を開始しました。我々9人は最初のSLであり、後輩の就活・学業支援に取り組みました。本活動は端緒にすぎたばかりであり、目覚ましい成果を見るに至っていません。しかし、システム工学部同窓会と連携した就業力教育は、たいへん有意義であったとの多くの感想が寄せられました。また、学部内にも本活動への認知が進んでいることを実感しています。今年度は資格取得に向けた勉強会の開催（写真）などを通して、さらに実質的な活動として根付くよう頑張りたいと考えています。卒業生の皆様、本活動に対するご支援を宜しく願います。

(システム工学研究科 博士前期課程 2年 坂東良樹)

## 活躍する卒業生

2012年3月に聴覚メディア研究室にて博士前期課程を修了した宮森と申します。学生時代は音声認識に関する研究を行い、積極的に学会発表させていただきました。特に2010年のFIT情報科学技術フォーラムでの受賞は、(株)東芝からお話を頂き、引き続き音声認識の研究に従事するきっかけとなりました。しかし、音声分野での就職は、入学当初には全く想像すらしていませんでした。このような巡りあわせは、デザイン情報学科で幅広い分野に興味を持ち、勉強できたためだと思えます。これからも、技術や分野にとらわれることなく、おもしろいと思う物事を広範囲で見られる視野を大切に、次世代技術の開発に貢献したいと思います。



FIT情報科学技術フォーラム受賞式

# 平成23年度 就職先



## 学部

(株)アイ・コミュニケーション、IDEC(株)、(株)I2C、赤穂市、(株)アスタリスク、アスモ(株)、アチーブメント(株)、(株)アメフレック、(株)アルテクナ、EH(株)、イートアンド(株)、117グループ、医療法人和泉会、いずみの農業協同組合、伊藤特許事務所、(株)イムラ、岩谷産業(株)、(株)インサイト、(株)内田洋行、(株)栄光堂セレモニューニオン、エスアイソリューションズ(株)、NECシステムテクノロジー(株)、NECネットエスアイ・エンジニアリング(株)、(株)NSD、(株)エヌ・ティ・ティ エムイー、(株)エヌ・ティ・ティ・データ関西、大島造園土木(株)、(株)オートボックスセブン、岡畑興産(株)、(株)奥村組、(株)桶庄、(株)オネスト、オムロン(株)、川崎重工業(株)、(株)川島製作所、(株)河鶴、(株)関電エネルギーソリューション、岸和田市、紀の里農業協同組合、京都電子計算(株)、(株)協和エクシオ、(株)近鉄百貨店、クボタ精機(株)、グローリー(株)、警視庁、高周波熱錬(株)、(株)鴻池組、興和(株)、コーナン商事(株)、NPO法人五環生活、コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)、(株)サイバーエージェント、(株)酒直、阪本薬品工業(株)、(株)さくらケーシーエス、三和シャッター工業(株)、JA島根おおち、(株)システムコーディネイト、(株)システムサポート、ジャパンマテックス(株)、新日鉄ソリューションズ(株)、Sky(株)、スミセイ情報システム(株)、住友金属プラント(株)、セキスイハイム山陽(株)、仙台国税局、泉南市消防本部、(社)全日検、(株)総合資格、(株)タイキ、(株)大気社、(株)大都技研、(株)ダスキン、TIS(株)、(株)DMM.comラボ、(株)テクニカルソフトウェアコンサルタント、(株)デンソー、デンソーテクノ(株)、(株)店舗開発マネジメント、東亜道路工業(株)、(株)東和システム、凸版印刷(株)、(株)ナフコ、(株)ニッセイコム、日東紡績(株)、日本オフィス・システム(株)、日本コンピューター・システム(株)、日本テレビ放送網(株)、日本レヂボン(株)、日本生命保険相互会社、(株)日本ホットライフ関西、(株)ノーリツ、パナソニックエクスセルテクノロジー(株)、浜松ホトニクス(株)、阪南市、飛騨運輸(株)、(株)日立ソリューションズ、(株)日立ソリューションズバリュー、富士通関西中部ネットテック(株)、富士通テクノロジ(株)、(株)富士通パーソナルズ、富士電線工業(株)、(株)平成建設、本田技研工業(株)、榎谷精工(株)、(株)ミキハウス、ミサワホーム中国(株)、三菱自動車工業(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、(株)三菱東京UFJ銀行、(株)メイテック、MEIWA PC SYSTEM、(株)ラウンドワン、(株)リンクレア、和歌山市、和歌山ノーキョー食品工業(株)、(株)和田正通信サービス

## 博士前期

(株)アイ・エム・シー、浅井謙建築研究所(株)、あさかわシステムズ(株)、アズビル(株)、(株)アライドマテリアル、岩本石油(株)、(株)インタークエスト、ウシオ電機(株)、(株)浦辺設計、(株)エイチアイ、SCSK(株)、NECシステムテクノロジー(株)、(株)NSC、(株)NTTデータCCS、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ、(株)荏原製作所、エムティティ(株)、(株)エリッツ、(株)エルネット、エルピーダメモリ(株)、大阪精密機械(株)、国立大学法人大阪大学、(株)オーグス総研、(株)大林組、オムロン(株)、(財)化学物質評価研究機構、川惣電機工業(株)、関電システムソリューションズ(株)、岸和田市、キャノンマシナリー(株)、紀陽情報システム(株)、京セラドキュメントソリューションズ(株)、クボタシステム開発(株)、KLab(株)、グローリー(株)、興亜開発(株)、コーデンシ(株)、(株)コスモ、コベルコシステム(株)、五洋建設(株)、山九(株)、(株)GSP、(株)JSOL、四国電力(株)、システムズ・デザイン(株)、(株)シティ・コム、シャープ(株)、シリコンスタジオ(株)、(株)スーパーソフトウエア、スズキ(株)、ステラケミファ(株)、スマートエンジニア(株)、住友金属工業(株)、住友金属プラント(株)、住友ゴム工業(株)、(株)ゼンリン、総合警備保障(株)、(株)ソニー・コンピュータエンタテインメント、ダイキン工業(株)、大昌精機(株)、大日本印刷(株)、大日本スクリーン製造(株)、大日本塗料(株)、ダイハツ工業(株)、田岡化学工業(株)、タケモトデンキ(株)、中紀精機(株)、(株)椿本チエイン、TIS(株)、(株)デンソー、東建コーポレーション(株)、(株)東芝、東洋アルミニウム(株)、東洋ゴム工業(株)、東洋ハイテック(株)、東洋紡績(株)、凸版印刷(株)、豊中市、ナガセケムテックス(株)、西日本旅客鉄道(株)、日本電気航空宇宙システム(株)、日本圧着端子製造(株)、日本興業(株)、日本システム技術(株)、任天堂(株)、(有)ネオジオ、長谷川造園(株)、(株)パトライト、日立建機(株)、日立工機(株)、(株)日立ソリューションズ、(株)日比野設計、(株)フジキン、富士通テン(株)、(有)プロトワーク、(株)堀内機械、本田技研工業(株)、(株)マーベラスAQL、(株)マックス、三菱自動車工業(株)、三菱電機(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、三菱電機コントロールソフトウェア(株)、三菱電機情報ネットワーク(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)、(株)メイテック、メルコ・パワー・システムズ(株)、矢崎総業(株)、ヤマト科学(株)、レノボ・ジャパン(株)、YKK(株)、和歌山市

## ご案内

システム工学部の近況についてお伝えしているこのリーフレットも、今年で7回目となりました。今後も継続してみなさまにお届けしたいと思いますので住所等に変更のある場合は、同封の用紙に記入して、返信用封筒に入れて返信してください。

## 編集

和歌山大学 システム工学部 教育・研究・技術支援室

### 連絡先

〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930

● Tel:073-457-8011

● E-mail:sotsugyou@ml.sys.wakayama-u.ac.jp

※住所や勤務先の変更連絡はこちらでも受け付けます。